

市民病院ニュース

Higashimatsuyama Municipal Hospital
東松山市立市民病院
〒355-0005 埼玉県東松山市大字松山2392番地
TEL:0493-24-6111 FAX:0493-22-0887

News from City Hospital

第2号



～看護部の今年度の取り組み～

今年度は、外来に「糖尿病療養指導士」と「緩和ケア認定看護師」を配置し、退院調整の看護師もベテラン看護師が対応しています。
病棟では、医師の説明に看護師が同席して情報を共有し、患者様にきめの細かいケアを提供できるよう、体制づくりを進めています。
4月から入職した新人看護師達も頑張っています！

Contents

前院長・新院長からのごあいさつ	P2
市民病院の経営の改善状況	P3
市長・新院長対談	P4
各診療科のご案内	P6
外来担当医表	P8

前院長・新院長からの ごあいさつ

市民病院はこの春、長年にわたり病院の発展に尽力された鈴木裕太郎院長が3月末をもって定年退職され、埼玉医科大学国際医療センターより森野正明医師が新たに院長として就任いたしました。



退任のご挨拶

前院長 鈴木 裕太郎

日頃、市民病院をご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。

私は現在の病院新館の完成を間近に控えた、昭和62年1月から常勤医として市民病院に勤務してまいりました。当時の市民病院は現在の本館のみで、1階に外来、2階に検査科・手術室・医局などがありました。常勤医として勤務する前は、まだ新館の設計段階で、週1回というペースで診療などをお手伝いさせていただきました。本館の化粧直しの際は、仮設プレハブの外来棟で、冬場は石油ストーブで暖をとりながらの外来診療でしたが、新しい病院、そして綺麗な本館が出来るとの思いで皆頑張ったのを記憶しています。今ではそれを知っている職員は一部の看護師のみになってしまいました。

新館の落成式では、新館3階のCCUに来賓の方々をご案内した記憶があります。当時のCCUのベッドサイドモニターは大変先進的かつ高価なもので、その後更新するまで10年以上にわたり全く故障もありませんでした。病床は212床となり、診療科も13科で医師数も30名を超えました。ある意味で当院の黄金期と言えましょう。

富永院長の後を引き継がれた松崎先生の後を受け、平成14年4月に新院長に就かれた大澤先生は、就任2日目にして病魔に襲われ、執務不能となられました。その年の5月より私が急きょ副院長に選任され、11か月間院長の代行をし、翌15年4月から院長を拝名いたしました。平成16年からの新医師臨床研修制度の影響で医師の引き剥がしが起こり、その後は医師確保に奔走する事になりました。まさか今の様な勤務医不足を誰も想定していなかったと思います。当院でも将来の医師確保に向けて自前で医師を教育する必要性を感じ、臨床研修病院の指定を受けました。2名の医師を送り出しましたが、大学に戻らずに退職する医師が増え、大学からの補充も無く、やむなく病床の縮小と共に臨床研修病院、救急告示病院の看板を降ろすことになりました。

その後、内科・外科はマンパワー不足で危機的状況が続いておりましたが、埼玉医科大学病院より応援を頂き、現在に至っております。しかし内科の危機的状況は続いております。そこで利用される患者さん方をお願いしたい事があります。一つ目は、コンビニ的受診は極力控えて頂き、時間内の受診を原則お願いします。二つ目は、具合が悪い時は早目に受診して下さい。市民の皆様で病院を大事に利用し、末永く育てて頂きたいと考えております。



就任のご挨拶

新院長 森野 正明

この度、鈴木裕太郎前病院長の退任に伴い、本年4月に病院長に就任いたしました森野です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当病院は昭和42年、地域住民への高度医療の提供と健康維持を目的として開設され、以来多くの日本大学医学部の先生方のご尽力により運営され、地域医療の役割と責任を果たしてきました。

前任者の鈴木先生は、循環器を専門とする内科医として市民病院に25年以上勤務され、11年前に病院長に就かれました。直後に新臨床研修医制度が導入され、研修医の卒後進路が大きく変わりました。地域への医師の派遣機能を有していた大学の医局構成の変化により、地域の勤務医不足が強まり、当院における医師確保の困難さと病床削減、救急告示病院の取り下げの経緯は、鈴木前病院長の「退任のご挨拶」にもあるとおりです。現在は医療従事者が最も少ない時期と思われ、今後も医療従事者の確保、病床維持、救急告示についての努力が必要とされています。

現在、世界で唯一の国民皆保険制度を維持するなか、やはり世界で前例のない超少子高齢社会を迎えています。厚生労働省が誘導する医療行政も、団塊の世代が後期高齢者となる10年後を「2025年問題」と捉えて、急増する高齢者と年々増加する総医療費に対応すべく、急速な医療改革を求めています。

限られた医療資源を有効に運用するために行われる医療政策改正の過程で、病院の運営も急性期医療、亜急性期医療、回復期リハビリ、在宅ケア対応など、超高齢社会に提供すべき医療に政策誘導されます。当院でも高齢者に対する医療の強化のために、内科、外科、脳神経外科、整形外科、リハビリ科などでの緊密な連携が求められます。また在宅ケアや地域ケアの重要性も増すために、地域の診療所、医療・訪問看護・介護施設などとの病病連携・病診連携の強化が必要とされています。

私は埼玉医科大学関連病院で長年小児科医として勤務してまいりましたので不慣れではありますが、地域の医療施設との連携に努め、日本大学医学部や埼玉医科大学の御協力を仰ぎ、地域医療の充実に努めていきたいと存じますので、市民の皆様方をはじめ関係者の方々におかれましては、何卒ご協力をお願い申し上げます。

Management

市民病院の 経営の改善状況

❖ 平成25年度は9年ぶりに経常収支がプラスとなる見込みです!

市民病院では、平成24年度からの3年間で経常収支(診療収益や市からの負担金・補助金などの収入合計から費用を引いた金額)の均衡(±0)を目標として掲げながら、経営の改善に取り組んできました。

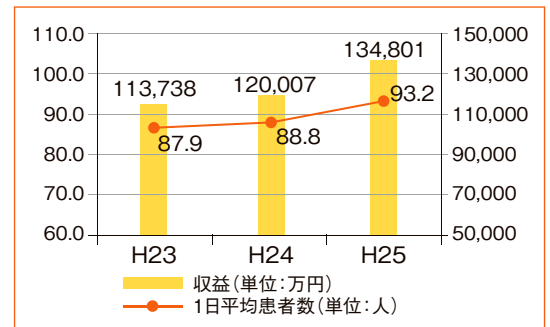
平成25年度の決算については、今後監査委員によるチェックや市議会による認定を経て確定するものですが、3月までの収入や費用の状況から判断して、経常収支の均衡を1年前倒しで達成できる見通しになりました。

しかしながら、今後は再び厳しい状況となることも予想されますので、引き続き職員が一丸となって収入の増と費用の削減に取り組んでまいります。



❖ 入院収益と1日平均患者数

救急車の搬送患者の受け入れや手術に積極的に取り組んだ結果、平成24年度の後半から収益、1日平均の入院患者数ともに好転し、平成25年度の収益は前年度に比べて12%余り増加しました。

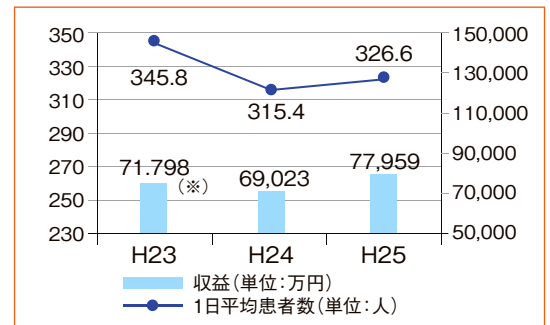


❖ 外来収益と1日平均患者数

平成24年度は非常勤の医師を削減した影響もあり、収益、1日平均の患者数ともに前年度を下回りました。

しかしながら、平成25年度は平日の専門外来の開設や土曜日の診療科の充実などにより収益、1日平均の患者数ともに増加に転じました。

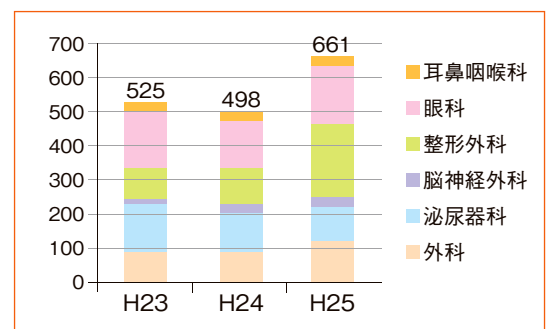
(※)平成23年度は4月から1月まで外来診療は院内処方だったため、実際の外来収益は上のグラフの数字の2倍近い13億4,124万円余りありましたが、院外処方に切り替えた平成24年度以降との比較を行う都合上、院内処方の収入を差し引いた数字を掲げています。



❖ 診療科別の手術件数

平成24年度は医師の異動や退職が相次いだ影響もあり、平成23年度を若干下回りました。

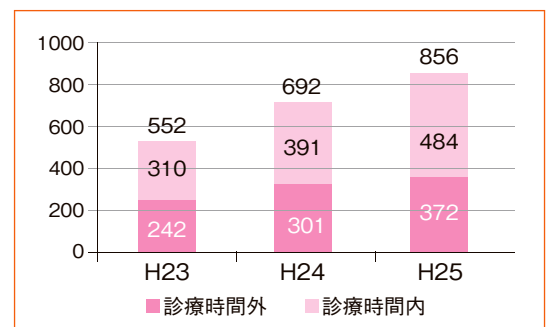
しかし、平成24年度の後半からは、新たに着任した若手医師が積極的に手術に取り組んだ結果、平成25年度は整形外科、眼科、外科などを中心に手術件数は大幅に増加しました。



❖ 救急車搬送患者数

現在、医師とりわけ内科医の不足により、時間外救急診療については日曜日のみの対応となっています。

全面再開には、医師をはじめ必要なスタッフを確保し、体制を整えることが不可欠ですが、高齢化とともに救急医療のニーズが高まる中、現状においてできる限り対応すべきという姿勢で取り組んだ結果、平成25年度の救急車搬送患者数は平成23年度に比べて55%以上増加しました。



森田市長



森野新院長



進行役

城西大学経営学部マネジメント総合学科教授

伊関友伸教授

伊関友伸教授のプロフィール

元埼玉県庁職員で県立病院の経営改善などに関わり、現在は城西大学経営学部マネジメント総合学科教授。

総務省公立病院に関する財政措置の在り方等検討会委員、夕張市病院経営アドバイザーなど、数多くの国・地方自治体の委員等をつとめる自治体病院経営のエキスパート。

平成26年4月、市民病院は新たな病院長を迎えました。夏頃からは3年がかりの本館建替え工事も始まります。

市民病院にとって新たな時代のスタートの年となる訳ではありますが、当院のみならず自治体病院を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあります。

そこで今回は、埼玉県庁の元職員で、現在は城西大学経営学部教授として学生を指導するかたわら、北海道の夕張市をはじめ、全国の自治体病院の経営改革に精力的に関わっている伊関友伸(ともとし)さんを進行役としてお迎えし、森田市長、森野院長と3人で市民病院の課題や将来像について率直な意見交換を行っていただきました。

伊関 森野先生、着任されて1か月が過ぎましたが、市民病院の印象はいかがですか？

院長 長年にわたり埼玉医科大学の関連施設に勤務してきましたが、近くにはあっても馴染みのない存在でした。実際に来てみますと、少ない職員数ながらも、急性期(救急車で搬送されるような急病の状態)の病院として幅広い分野をカバーしているという印象を持ちました。

伊関 私も何度かお邪魔していますが、市民病院は小さいながらも頑張っていると感じます。

経営状況もだいぶ好転していると感じましたが？

市長 4年前、市長に就任した当時は正直かなり厳しい状況でした。2年前から新たな経営改革をスタートさせました。私も何度も病院に足を運び、市が全面的にバックアップすることを再三職員に伝えましたが、やはり診療科ごとに数値目標を掲げ、医師をはじめとした病院の各スタッフがそれに向かって取り組み、成果を共有する中で、まとまりが出てきたことが大きいと思います。



伊関 良い先生も増えたと聞きましたが？

院長 外科系を中心に若い先生が多くなり、ほとんどの診療科が医師2名の体制ではありますが、大学の先輩後輩の関係などもあって、チームワークが良いと感じています。手術も数多く手がけ、医師の多くを派遣していただいている日本大学医学部からも評価を得ていますので、先生方も手ごたえを感じているのではないのでしょうか。

市長 小規模な病院であっても、若手の先生が腕を磨くことができるように、指導や手術の応援のための医師に来ていただいたり、最新の機材を揃えたりといった配慮を行い、先生方のやる気に応える努力もしています。

伊関 それは良いことです。病院にとって重要なことは、若い医師の方々が技術を磨ける環境をつくることです。若い先生はどうしても定期的に異動しますから、派遣元の大学からそうした環境が評価されれば、次もやる気のある先生が来るという流れになりますね。

院長 市民病院は開設当初から、日本大学医学部の全面的なバックアップのもとで地域医療を担って来ましたが、近年の全国的な医師不足のあおりを受け、苦しい時期が続いてきました。

そうした中で、近くにある埼玉医科大学が、地域医療を守るという意味でお手伝いすることは、むしろ当然のことではないかと思えます。少子高齢化への対応は待たなしの状況ですので、引き続き日本大学、埼玉医科大学等に協力いただきながら、地域への医療提供を継続していきたいと考えています。

伊関 院長から見て、市民病院の課題をどうお考えでしょうか？

院長 この地域は、病院や診療所も少なくなく、福祉サービスも充実していますので、これからの超高齢社会に地域完結型で対応していくことも可能ではないでしょうか。そうした中、市民病院は、スタッフをさらに充実しながら、引き続き急性期から亜急性期(病状が不安定ながら、徐々に回復に向かっていく状態)の患者さんに幅広く対応していくのが一番の役割ではないでしょうか。

伊関 高齢者が健康で、安心して暮らせるまちづくりの中核を担う病院を目指すということですね。

市長 ようやく市民病院も少し先が見えてきたところですので、他の医療機関や施設との連携の中でどういう病院を目指していくかという話を出していくことが必要ですね。

伊関 今年から改築も予定されているそうですね。

市長 昭和49年に建てた本館の耐震性が不足するために行うものです。工事費の高騰が頭の痛いところですが、今後も市が市民病院をしっかりと運営していくという決意表明でもありますので、市民の皆さんにもご理解いただきたいと思えます。

伊関 災害への備えは、自治体病院の重要な役割ですので、市民の皆さんにもぜひご理解いただきたいですね。もちろん、税金を使う訳ですから、可能な限り効率的な運営を目指すことは大事です。

伊関 時間外救急診療の再開についてはいかがですか？

院長 時間外救急については主に内科医が対応することになりますので、まずは内科の充実を図ることが先決と考えています。

伊関 確かに無理に時間外救急診療を再開して、内科の医師の皆さんが疲弊してしまえば、かえって問題ですね。着実に体制を充実していくしかないですね。

市長 全面再開こそしていませんが、救急車の受入台数は大幅に増えています。



院長 もちろん、今後、急性期主体の病院としてやっていく上では果たすべき役割ですので、医師だけでなく、薬剤師、検査や放射線の技師などの充実を図ることで、必要な体制を整えていかなければならないと思えます。

伊関 次にこれからの超高齢社会にどう対応していくか伺いたいと思います。これからは、各医療機関が、急増する高齢者の方々を地域全体でどう支えていくかという視点が必要です。

院長 そのためには、地域医療を担う施設間の連携が大切です。市内には主要な病院が3つありますが、それぞれの施設で性格がやや違いますので、看取りの問題も含めて役割分担を進めていく素地が十分あると思えます。

市長 医師会病院とは現場レベルでの連携が具体的に動き出しています。これからは市民病院自体の立ち位置も含め、連携と役割分担について幅広く議論していくことが必要です。



幸い、医師会の先生方からも前向きなご意見をいただいておりますし、医師会病院ともコミュニケーションを取り易い環境にもなってきました。

伊関 小川の赤十字病院との関係でも同じことが言えますね。

市長 あとは誰が音頭を取るのかということになります。本来であれば、埼玉県が中心となって地域の医療ビジョンをまとめてほしいところですが、比企ということでは東松山市がリーダーシップを発揮することも必要かもしれません。

伊関 現在、国では超高齢社会に対応するため、医療と福祉、健康づくりの3つを地域で一体的、効率的に進めていくという「地域包括ケア」という考え方が提唱されていますが、東松山市には市の施設として市民病院と総合福祉エリアがあり、その点が強みになると思います。

市長 総合福祉エリアにはたくさんのスタッフがいますし、機動力もあります。ただし、残念ながら、現状では相互の連携が十分とは言えません。

伊関 健康づくりという点では、日本スリーデーマーチに代表されるウォーキングという地域資源もありますね。

市長 市では現在ウォーキングを素材にした健康長寿埼玉プロジェクトを推進していますし、ハッピー体操も年間3万人が参加しています。

伊関 2つの施設、さらにウォーキングを活かしたモデルができれば、若い医療者にとって魅力ある地域になると思います。医療と福祉、健康づくりのまちづくりを進めるためには、病院や開業医の先生方、福祉関係者の間のコミュニケーションが重要になってきます。そうした地域の担い手を繋いでいくという行政の役割も大きいと思います。

市長 市民病院は良くなったと言ってもくださる市民も多くなりました。院長と2人3脚でさらに一歩前進させていかなければなりません。

伊関 東松山市の人口においても非常に多い、第一次ベビーブーム世代の皆さんが75歳になる2025年に向けて、この10年でいかに医療・福祉を再構築し、地域として備えができるかが重要です。市民病院のこれからの活躍に期待しています。本日はありがとうございました。



各診療科のご案内

「市民病院で何ができるの?」「市民病院にはどんな先生がいるの??」というみなさまの声にお応えして、今回は市民病院の各診療科を一挙ご紹介いたします。診療体制も徐々に整いつつありますが、これからもさらに充実していく予定です!

▶ 内科

一般内科をはじめ、循環器・血液・内分泌糖尿病・呼吸器・感染症等の専門医が在籍しており、土曜日の午前中も診療を行っております。また、上部内視鏡・心エコーなどの検査もほぼ毎日実施しているほか、在宅酸素療法外来といった特殊専門外来も行っております。

第1～第4金曜日の15時30分からは「糖尿病教室」を行っております。糖尿病専門医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・検査技師・理学療法士らが分担して糖尿病患者さんの教育・指導などを行っており、誰でも無料で受けられますので、是非ご利用ください。

◆常勤医師紹介

副院長

須賀原裕一

日本内科学会認定内科医
日本血液学会認定血液専門医・指導医
日本医師会認定産業医
身体障害者福祉法指定医

診療副部長

松村 誠

日本内科学会認定内科医
日本循環器学会循環器専門医
日本超音波医学会専門医・指導医
日本心臓病学会心臓病上級臨床医
日本外科学会認定医
外国人医師臨床修練指導医

内科部長

八木 慎次

日本内科学会認定内科医
日本糖尿病学会専門医

※その他に総合内科・呼吸器・アレルギー・感染症等の専門医(非常勤)も在籍しております。

▶ 外科

消化器外科・一般外科を中心に行っております。

胃カメラ検査や大腸内視鏡による検査・ポリープ切除のほか、内視鏡的逆行性胆管造影(ERCP)などの治療も行っております。また、当院は常勤の麻酔医が在籍しているため、適宜手術の実施が可能です。

◆常勤医師紹介

診療副部長

石塚 直樹

日本外科学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

外科部長

岡田 典倫

日本外科学会専門医
日本消化器外科専門医
大腸肛門病専門医
身体障害者福祉法指定医

※その他にがん治療認定医等の専門医(非常勤)も在籍しております。

▶ 整形外科

打撲や捻挫・骨折はもとより、腰・膝・肩などの骨、関節、筋肉などの痛みやしびれなどに対する治療をはじめ、高齢者の変性疾患・骨粗しょう症・脊椎圧迫骨折などに伴う骨折治療や慢性疼痛に対する治療を多く行っており、近年では、人工関節置換術などの手術も増えております。

また、各種専門外来を行っておりますので、担当医に是非ご相談ください。一般外来は、土曜日の午前中も行っております。

◆常勤医師紹介

医長

清水 学

日本整形外科学会専門医
日本リウマチ学会認定リウマチ医
身体障害者福祉法指定医
臨床研修指導医

医師

岡村 祐己

日本整形外科学会専門医

※その他にスポーツ整形・脊椎脊髄病の専門医(非常勤)も在籍しております。

▶ 脳神経外科

脳血管疾患・頭部外傷・正常圧水頭症・脳腫瘍・機能的疾患などの診療を行って



り、一般外来は土曜日の午前中も行っております。また、最新のMRI(磁気共鳴断層診断装置)を使用した検査や脳ドックも行っておりますので、是非ご利用ください。

◆常勤医師紹介

診療副部長兼
脳神経外科部長

白田 寛治

日本脳神経外科学会専門医
日本医師会認定産業医
身体障害者福祉法指定医

医長

栗野 貴志

▶ 小児科

当院の小児科は平日の午前・午後に診療を行っております。また、初診・急患に限り、土曜日の午前中も診療を実施しております。午後の診療では、心身症・不登校・いじめ・摂食障害のチェックなども行っております。

◆ 常勤医師紹介

院長	森野 正明	日本小児科学会専門医 日本腎臓学会専門医・指導医 日本医師会産業医 身体障害者福祉法指定医
診療副部長兼 小児科部長	鈴木 紀秀	日本小児科学会専門医

▶ 眼科

屈折異常・白内障・緑内障・角結膜炎・糖尿病性網膜症等の疾患の診療を行っております。午後は、予約検査(蛍光眼底造影、静的・動的視野検査等)や、予約手術(外眼部手術、網膜裂孔、糖尿病性網膜症に対する網膜光凝固、緑内障に対する虹彩・隅角光凝固、後発白内障に対するYAGレーザー後囊切開術、眼瞼顔面痙攣に対するボトックス注射等)を行っております。

当院での白内障手術は、ご高齢の方や基礎疾患のある患者さんが多いため、内科による全身状態評価のもと、片眼3泊4日の入院で行っております。

また、昨年度末にOCT(光干渉断層計)を導入し、より詳細な検査が可能になりました。



◆ 常勤医師紹介

医長	大西 貴子	日本眼科学会専門医 身体障害者福祉法指定医
----	-------	--------------------------

▶ 耳鼻咽喉科

耳・鼻・副鼻腔・口腔・咽喉頭・唾液腺の各疾患、甲狀腺疾患、頭頸部腫瘍疾患などの診療を行っております。平日の午後は、一般外来のほか、予約検査や予約手術を行っております。

◆ 常勤医師紹介

耳鼻咽喉科部長	小川 益	日本耳鼻咽喉科学会専門医 身体障害者福祉法指定医
---------	------	-----------------------------

※その他に非常勤医師1名が在籍しております。

▶ 泌尿器科

前立腺疾患(前立腺肥大・前立腺がん)、腎臓・膀胱などの尿路疾患等の診療を行っております。手術では腹腔鏡下手術なども実施しており、患者さんに負担の少ない治療が可能です。また、当科では、夜尿症(おねしょ)の専門外来や、女性の尿失禁症や骨盤臓器脱などの治療も可能ですので、お悩みの方はお気軽にご相談ください。

◆ 常勤医師紹介

副院長兼 泌尿器科部長	平野 大作	日本泌尿器科学会専門医・指導医 臨床研修指導医 日本がん治療認定医機構暫定教育医 身体障害者福祉法指定医
医長	長谷川 了	日本泌尿器科学会専門医

※その他に、小児泌尿器の専門医(非常勤)も在籍しております

▶ 麻酔科

当院は常勤の麻酔科医が在籍しているため、適宜手術の実施が可能です。

◆ 常勤医師紹介

診療部長兼 麻酔科部長	菅谷 壮男	日本麻酔科学会麻酔科指導医
----------------	-------	---------------

▶ 皮膚科

水虫などの身近な病気から難治性皮膚疾患まで、幅広い外来診療を行っております。診療は、火曜日・水曜日・金曜日の午前中のみとなっております。

◆ 医師紹介

皮膚科専門医や皮膚悪性腫瘍指導専門医(非常勤)などの医師が在籍しております。

▶ リハビリテーション科

主に骨折などの整形疾患や脳卒中などの脳血管疾患、肺炎などの呼吸器疾患の急性期リハビリテーションを行っています。

今年度より作業療法士1名が新たに加わり、特に脳血管疾患の患者さんに対して日常生活動作の拡大が図れるようになりました。さらに、近隣病院や施設、介護福祉サービスなどが円滑に利用できるように、地域医療連携室と協力しながら、患者さんが地域で暮らしていけるようサポートしています。



外来担当医表

市民病院では、平日の午後・土曜日の午前も診療を行っています!

2014年6月1日現在

		月	火	水	木	金	土
内科	午前	朱	朱			朱	当番医
		樺 沢			樺 沢	酒 井	
		八 木	八 木			八 木	
		松 村	山 本	山 口	松 村	松 村	
		酒 井	須賀原	須賀原	宇 野	須賀原	
外科	午前	岡 田	石 塚	石 塚	岡 田	石 塚	当番医 (第2・4週のみ)
			額 額	榎 本	田 中		
整形外科	午前	清 水	清 水		清 水	清 水	当番医
		岡 村	山 崎	岡 村		岡 村	
					根 岸		
脳神経外科	午前	白 田	白 田	白 田		栗 野	当番医
	午後 (1:30~)			栗 野	栗 野	栗 野	
小児科	午前	鈴 木	鈴 木	鈴 木	森 野	鈴 木	鈴 木 (初診・急患のみ)
	午後 (2:00~)	鈴 木	鈴 木	鈴 木	森 野	鈴 木	
皮膚科	午前	休 診	須 山	麻 生	休 診	河 辺	休 診
眼科	午前	大 西	大 西	大 西	大 西	大 西	大 西 (第4週のみ)
	午後	予約検査	予約検査		予約検査	予約検査	
耳鼻咽喉科	午前	小 川	小 川	小 川	小 川	小 川	休 診
	午後 (1:30~)	小 川	小 川	小 川			
泌尿器科	午前	平 野	桜 井		平 野	平 野	平 野 (第2・4週のみ)
		長谷川		杉 本	長谷川	長谷川	
	午後 (1:30~)	平 野			長谷川	平 野	

※午前診療の受付時間は8:30からです。

特殊専門外来

当院では通常の外来診療に加え、以下の特殊専門外来を行っています。

特殊専門外来は事前の予約が必要な場合もございますので、お電話等でご確認ください。

◇ リウマチ専門外来(整形外科)

毎週月・火曜日 受付 午後1:00~3:00

リウマチ専用エコー(超音波診断装置)や生物化学製剤などによる診断・治療など

◇ 脊椎外来(整形外科)

毎週火曜日(第1週のみ休診) 受付 午前8:30~11:00

圧迫骨折、腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、腰椎すべり症、頰椎症など

◇ スポーツ外来(整形外科)

毎週木曜日 受付 午前8:30~11:00

テニス肘、野球肩、平泳ぎ膝、突き指、捻挫のほか、靭帯や半月板の損傷、脱臼など

◇ 小児泌尿器・おねしょ外来(泌尿器科)

第1・3水曜日 受付 午後1:30~3:30

小児を対象とした停留精巣、陰嚢水腫、夜尿症、包茎など

その他、在宅酸素療法、補聴器外来などの専門外来も行っています。お気軽にお問い合わせください。

職員募集中!!

市民病院では現在、薬剤師を募集しています。詳しくは管理課までお問い合わせ下さい。